

国栖地区地域づくり計画

目次

	はじめに	
I	地域づくり計画の役割	…1
II	地域づくり計画の目標年次	…1
III	国栖のすがた	…1
IV	地域づくりの基本方針	…5
V	地域づくり計画の目標、内容	…6
VI	地域づくり計画の目標を達成するために	…8
	1 自治協議会全体活動	
	2 自治協議会の組織体制	
	3 自治協議会の課題と方針	
	4 各部会の活動	…9
	① 美しい村推進部会活動計画	…9
	② 地域福祉推進部会活動計画	…12
	③ 農業振興部会活動計画	…14
	④ 防災・防犯部会活動計画	…16
	⑤ 地域活性化部会活動計画	…18
	⑥ 総務部会活動計画	…20
VII	重点プロジェクト－国栖の杜プロジェクト－	…22
	おわりに	…25

はじめに

水豊かな吉野川とみどりなす山々、街並みの調和が美しい国栖地区は、歴史と文化蓄積が豊かな地域です。私たちが暮らすこの地域を、住みやすく、将来にわたって住み続けたい・住み続けられるようにしていくために、私たち自身も地域の運営に可能な範囲で参加し、行政と協働して持続可能な地域づくりを推進していきます。

国栖地区には、人口の減少及び少子高齢化、交通や買い物などの不便さ、働く場の不足や地場産業の後継者難などの問題があり、その解決は簡単ではありません。しかし、私たちには、自然や歴史・文化に加えて、和紙と製箸という地域に根ざした伝統産業と国栖に愛着を抱き地域づくりに参加する人々という大きな資源を持っています。これらを活かし、地域の総力を結集すれば、地域課題を乗り越え、国栖の魅力を新たにし、賑わいを取り戻し、地域を再生することができると思っています。

これまでの経緯として、2015年度（平成27年）に開催された『国栖地区の将来を考えるワークショップ（考える会）』で、参加者同士が地域の資源を活かした地域づくりの方向（構想・ビジョン）について話し合い、国栖地区の地域づくり計画、『国栖のみらい』を定めました。そして『国栖のみらい』に描かれた地域の未来を実現するため、次年度の2016年（平成28年）には、国栖地区自治協議会を発足させ、各部会で様々な視点から地域の賑わい再生について話し合いを重ね、地域づくり活動を行ってきました。

本計画においては、国栖地区自治協議会を中心とした、国栖の地域づくりの方向（構想・ビジョン）をより具体的に描くとともに、小学校跡地の「国栖（くにす）の杜」を国栖地域での暮らしをより豊かにし、地域の連携を高める、地域活性の拠点として位置づけます。

本計画策定にあたっては、自治協議会の各部会へのヒアリングを実施し、その内容を基に、これまでの経緯をふまえて、計画の策定を行っています。

I 地域づくり計画の役割

「国栖地区地域づくり計画」は、国栖の地域住民が一丸となって取り組む活動目標を定めたものであり、国栖地域におけるまちづくりの基本となるものです。

「国栖地区地域づくり計画」は、これを取り巻く状況の変化に適切に対応するために、適正な時期に（概ね3年ごとに）見直し検討を行い、常に、時代の潮流や、地域状況の変化等に対応した計画づくりを目指すことにしています。

II 地域づくり計画の目標年次

「国栖地区地域づくり計画」は、地域住民の豊かな暮らしを実現するため、長期的な地域のまちづくりの基本方針や今後の取り組みを示すものであり、概ね10年後の地域のあるべき姿を描くことを目標としています。10年後の将来に向け、今からすぐに取りかかること（いますぐ～5年以内）、中長期的に取り組むこと（5年、それ以降）に区分し、いつまでに取り組むのかを明確にします。

II 国栖のすがた

（1）人口推移と定住の意向

国栖地区は、吉野町の最奥部の吉野川と高見川の合流するところを中心とした谷筋の集落で地区面積は8.9km²、人口は999人、世帯数430世帯（ともに2015年8月1日の住民基本台帳）。人口は昭和11年には、2,800人を超えていたという記録がありますが、近年は減少の一途を辿っています。図1に国勢調査による人口の推移と2040年までの予測値を、図2に今後の年代層3区分構成比の予測値を示しました。

人口は今から20年後の2035年には、現在人口の4割を切ると予想されています。また少子高齢化が激化し、高齢化率は10年後には約63%、20年後には68%に達すると予想されます。

地区面積 (km ²)	8.9
人口 (人)	999
人口密度 (人/面積)	112.2
世帯数 (世帯)	430

※人口・世帯数ともに2015年8月1日の住民基本台帳

図1 国栖地区の人口の推移

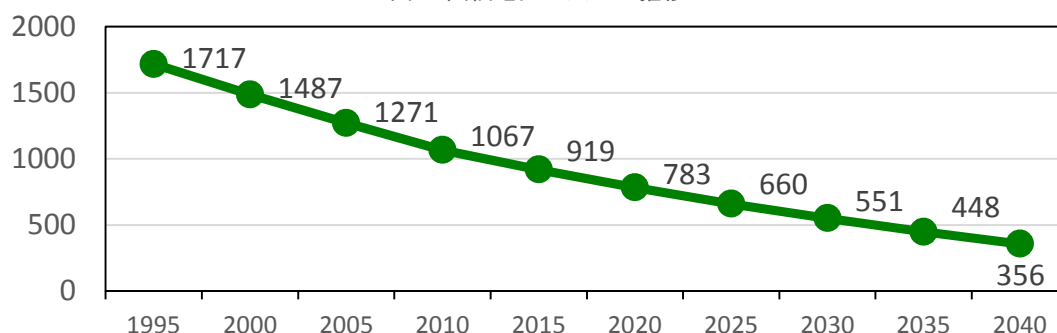
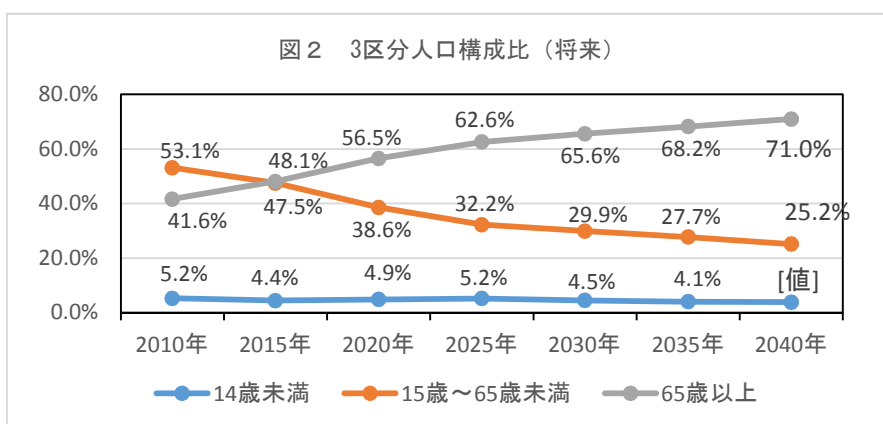


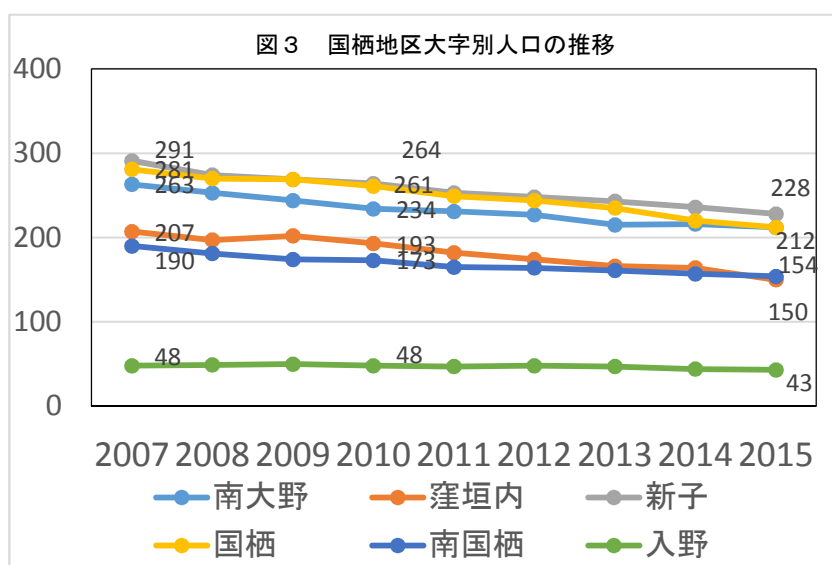
図2 3区分人口構成比（将来）



注：2010年までは国勢調査、2015年以降は吉野町総合戦略プロジェクトにおける予測（図1,2）

図3は大字別の人口の推移を示しています。全ての大字で減少の一途を辿っており、とりわけ国栖や新子で人口減少率が大きくなっています。

図3 国栖地区大字別人口の推移



(2) 国栖の地域資源と町史からみる六大字の概要

※国栖概要出典；吉野町史 各地区の状況は町史編纂当時のもの

南の川上村から蛇行しながら北流してきた吉野川（大川）が、東からの高見川（小川）を合わせて大きく西に転ずるところ、東西にこの地区を横断する伊勢街道と、南北に貫く松山・熊野街道が交差する要衝の地を占めて、大川沿いに南国栖・窪垣内・南大野、小川の谷に入つて新子・国栖・入野峠の向こうの津風呂湖の上端に位置する入野の六大字から成る。入野を除いては、いずれも川沿いの小平地ないし小緩斜地に密集し、ことに国栖・新子・窪垣内・南大野はほとんど断絶のない街村を形成し、水田はきわめて少なく、新子・窪垣内・南大野に至っては一枚の水田も無い。畑地も狭小で山もまた浅いこの地域には、当然他の地区では見られぬ特色が窺われる。



楮や特産卵を使ったスイーツ



ただ唯一、他の大字から孤立して、帝釋山の彼方に、松山街道を控えて、津風呂川上流の小盆地に三〇戸余りの農家を点在させている**入野**は国栖地区としては際立って異色を呈している。宗派も勝光寺（浄土真宗本願寺派）中心とした堅固な門徒集団である。また国栖地区としては珍しく田圃が広く、以前は水田が二ヘクタールに天水田が〇・五ヘクタールばかり、それに僅かの畑地があつて、飯米にちよつと余る程度だったが、それでも十分とはいえず、山も浅いので、古老の言葉で借用すれば「百姓半分出稼ぎ半分」の村で、炭焼きもしたという。しかも津風呂湖の湛水によって水田の半ばは湖底に没し、戸数も七戸を減少した。しかし、その農村的性格は、古老が覚えてから紙屋は一軒もなく、戦後の国栖を風靡した箸の製造もここでは一軒しかやっていないという事実にはつきり看取されよう。したがって入野は民族の上でも独自のものが窺われる。

新子は国栖地区の中心として、明治十年には既に八七戸を有し、現在も一四〇戸とぬきんで大きい。大字は大きく分けて、高見川の北側、国道沿いの街村をヒオモテと呼び、川の南の旧道沿いの静かな地区をオンジと呼んでいる。耕地はきわめて少ないが、熊野街道と伊勢街道の分岐点という地の利によって、昔は宿屋が四軒、材木屋も一〇軒近くあつて、タルマルなども製造し、店屋などもあつて、一口に言えば「商売」の土地柄であつた。商売せぬ家はほとんど紙と養蚕をやり、タルマル作りをし、山林労務や筏にも出た。こうした関係でどうしても早くから貨幣経済に直結して、独自の気風が醸成された。全戸が達中寺（浄土宗）の壇家でよくまとまっている。



ジヨウ峠の細尾根を越えてその南に位置する**南国栖**は八〇戸あまり。大川の東の国道沿いの部分を東ノ垣内、西側の部分は西ノ垣内（オンジ）と呼び、ここには水田が少しある。東ノ垣内にも僅かながら田があつたが、アナ谷の池をつぶしてから廃絶した。東ノ垣内の中でも、浄見原神社の付近がテンノウ、トンネルを出た所が椎の山、その南を堂ノ前といい、ここには以前道の下に堂があつて、そのかどに見事な桜の大木があつたが惜しいことに枯死した。堂はなくなつて、その本尊は現在清谷寺の本堂の向かつて右奥にエンミヨウさんとして祭られている。なおお寺の天保時代に過去帳には中ノ垣内という地名も見られるが、現在のどこかはっきりしない。

新子の東、上手に続く**国栖**はもと野々口といったが、吉野町に統合の際、由緒ある「国栖」の地名が失われることを惜しんで解消したものである。この大字も高見川を挟んで北のヒオモテと南のオンジに分かれている。オンジの上手には僅かながら水田があるが、ヒオモテは新子のそれと一体となつて街村をなしている。性格的には新子とほとんど同様である。戸数九〇戸余り。在所の竜泉寺（真言宗）の壇家を中心として、浄土宗・浄土真宗・禅宗の壇家もある。



大川の大曲折を隔てて向き合った形の細長い大字、**南大野**は普通単に大野と呼ばれている。（以下大野と記すこととする）。戸数一〇九戸。大部分が国道沿いに一キロメートル近くにわたつて連なる本在所に集中している。水田は全然無く、畑も狭く急傾斜で条件は良くないが、そのため昔から製紙が盛んで、そのほか筏や山仕事に出る人も多かった。本在所は窪垣内と同様に上出（上の垣内）・中出（中の垣内）・下出（下の垣内）の三垣内に分けられている。窪垣内の川向いにある小部落を大向といい、昔は六軒もあつたが、今は一軒に減っている。下手の大野橋を渡つてそれから下流に点在する間ノ原は約一〇戸、そのうち旧中庄の檉尾に近い二軒をモノセという。

新子の下手に続いて御霊神社のかどを曲がれば、半円状に切り込んだ斜面を中心に**窪垣内**がある。戸数九五、六戸。上出（上の垣内）・中出（中の垣内）・下出（下の垣内）に分けられている。土地の古老の話では、窪垣内は国栖地区でもっとも古く、大海入皇子伝説に深いつながりを持っており、大川がぐるりと廻り込んでいることが地名の起りになったという。そのため、西風以外の風当たりが弱くて暖かい。これに比べて新子あたりはかなり寒く、南大野も下半分は風当たりが強く河原も保たぬことさえある。おもに製紙の村で、余分に蚕を飼い、山仕事にも出た。

在所の東、キリガナ谷の奥のハシヤ平はかなりの傾斜地で、戦時中一時開墾したこともあるが、今はまたヤマになっている。しかしこの平を囲んで小石を積んだ高さ二メートルばかりの垣があり、垣の途中の所々に直径一・三メートルくらいのおとし穴があつたところを見ると、昔はこの垣によって猪の害から守られた耕地だったらしく天武天皇来遊の地と伝える君ヶ野もここで、キリガナ谷というのもその訛りだという。



(3) 地域課題

少子高齢化や地場産業の衰退をはじめ、国栖地区は様々な地域課題を抱えています。本計画の策定にあたり、自治協議会の各部会へのヒアリングを行った結果や、これまでの経緯から、国栖地域全体の地域課題として以下が挙げられます。

【なりわい】

- ・地場産業の衰退
- ・後継者がいない(農業、伝統産業)
- ・雇用が少ない

【将来の担い手】

- ・人口減少、少子高齢化
- ・若者の地域離れ
- ・若者の出会い・結婚の機会が少ない
- ・空き家の活用

【地域住民の意識】

- ・住民の地域に対する意識の低さ
- ・区長の後任がない
- ・共存共栄への意識があまりない
- ・自治協議会等、地域活動の周知
- ・女性や若者の地域活動への参加が少ない
- ・地域活動への参加者が限られており一部の地域住民の負担が大きい
- ・自主防災への住民の意識の低さ

【つながり】

- ・地区の連携が足りていない
- ・自治協議会の部会間で連携が足りていない
- ・災害時の地区の連携体制ができていない

【くらし】

- ・生活のための交通手段(高齢で免許更新できなくなると生活できない)
- ・国栖には食がない(飲食店、特産品など)

【歴史文化の伝承】

- ・住民が地域の歴史を知らない
- ・後世に伝える工夫が足りない(歴史が文書化されていないなど)

【土地】

- ・耕作放棄地がある
- ・農地が狭い、少ない
- ・農業における獣害がある
- ・災害時に崩れる危険箇所がある
- ・道の整備が必要

IV 地域づくりの基本方針

国栖地域は少子高齢化や後継者、人材不足など、さまざまな地域課題を抱えています。これらの課題を克服し住民一人ひとりが国栖で生き活きと心豊かに暮らし続けるためには、住民自らがそれらの地域課題に真摯に向き合い、地域の未来への夢を描きながら、その実現に向けて皆で協力して行動することが必要です。こうした国栖地域の地域づくりを進めるにあたり、以下のようなテーマを設定します。

□国栖地区のまちづくりのテーマ

上古から受け継がれた自然や歴史文化を活かし
美しい国栖を未来につないでいくまちづくり

*国栖の美しさは自然であり、歴史文化であり、人のあたたかさです。一人ひとりが主体的に行動することで、これらの国栖の魅力を未来につなぎ、住民自らの手で「国栖のみらい」を切り拓いていきます。

V 地域づくり計画の目標、内容

本計画の策定にあたり、自治協議会の各部会へのヒアリングを行った結果から、地域づくり計画の目標、内容として以下が挙げられます。

1. みんなで協力して助け合うまち

- ・ 少子高齢化の中にあっても、人々が生きがいを持ち、生涯生き活きと暮らしていけるよう、人と人の繋がりや生活の中での助け合い、日常から生まれるコミュニケーションを大切にします。
- ・ 地域活動についての地域住民への周知に力を入れ、住民の地域意識を高めます。
- ・ 地域住民の暮らしをより豊かにする拠点として「国栖の杜」の活用を通して、地域の交流や連携を高めます。



芝桜の植栽



ハナミズキの植栽

2. 安心・安全に、生き活きと住み続けられるまち

- ・ 少子高齢化の中にあっても、安全安心な暮らしが継続できるよう、地域の実情に見合った地域自治組織の体制を検討します。
- ・ 見守り活動等により、高齢者や障がい者も安心して暮らせるまちを目指します。
- ・ 高齢者も不便なく買い物等ができるよう、地域の実情に見合った公共交通システムを検討します。
- ・ 狭あい道路や危険箇所についての安全対策を検討します。
- ・ 災害時に、地域住民で主体的な災害対応ができるよう、防災関連組織を中心に地域住民同士の助け合いの仕組みをつくります。



3. 人が集い、にぎわいのあるまち

- ・国栖の魅力を積極的に情報発信することで、国栖地域に興味関心を持つ人の輪を広げます。
- ・地域住民が気軽に集える場づくりをすすめます。
- ・「国栖の杜」を観光・交流・情報拠点とし、地域内交流の機会を増やすとともに、外の人々が国栖地区に来てくれることを目指します。
- ・移住希望者を積極的に受け入れる体制づくりをすすめます。
- ・地域産物を活かした魅力のある食をつくることで、来訪者や地域の集いを生み出します。



国栖の里灯り展



上野誠氏、松坂慶子氏来訪時のおもてなし料理

4. 地域資源を守り、伝えるまち

- ・国栖の魅力である美しい自然景観・歴史文化景観の保全と活用に努めます。
- ・地域の風土・資源を活かした地場産業の活性化を図ります。
- ・地域の魅力の研究や発見により、国栖の持つ魅力を地域内の人が再認識するとともに、地域外の人にわかりやすく伝えます。
- ・大字を超えた連携を図り、美しい国栖の歴史や伝統・文化を後世まで伝えます。



手漉き和紙の魅力



国栖の里散策
ビュースポット看板



ビュースポット案内

VI 地域づくり計画の目標を達成するために

1 自治協議会の全体活動

(1) 各部会活動の調整事業の実施

各部会活動を確認しつつ事業計画及び予算を立てて、事業を進めます。

(2) 自治協議会事業の実施

国栖地区で実施される「国栖の里灯り展」等大規模なイベント等の開催を支援することにより、地域の活性化を図ります。

(3) その他の事業

その他地域づくり計画の目標達成に必要な事業を実施します。

2 自治協議会の組織体制

自治協議会の組織図は以下になります。



3 自治協議会の課題と方針

これまで2年間、国栖地区自治協議会の各部会で活動を行ってきましたが、その中で見えてきた課題として、部会間の連携が不足していることや、自治協議会の活動について地域住民への周知が充分になされていないことが挙げられます。そのため部会全体で連携を図ることのできるネットワーク体制をつくり、各部会が意識的に連携することや、地域内の住民への活動の周知に力を入れて住民の地域に対する意識を高めることに留意し、今後の活動を進めることが求められます。

4 各部会の活動

部会ごとに、役割や基本方針、これまでの代表的な活動、今後の活動（短期・中長期）を以下に示します。今後の活動では、各部会を中心に取り組む活動の項目ごとに、町や地域、各部会等との連携についても示しています。

① 美しい村推進部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・地域住民みんなのここを一つにする
- ・住民の地域意識の向上
- ・国栖の自然・歴史景観の美しさを守り、伝える
- ・歴史伝承、自然景観
- ・地域外の人を呼び込む
- ・観光、定住、空き家活用

□活動内容

【これまでの活動】

芝桜・ハナミズキの植栽、ビュースポットへの看板設置、語り部の養成、空き家を活用したイベント、手づくり灯り教室、観光プロモーション素材撮影、上古の里 国栖マップ作成、国栖の魅力ポストカード作成、森林セラピー誘致



森林セラピー



ハナミズキの植栽



芝桜の植栽

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
	地域・住民		町と協働して行うこと
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	他部会	その他地域組織・地域住民	
(1) 「国栖の里」の景観を守る住民意識の醸成			
・国栖地区の新たな景観づくり、景観の発掘			
・美しい景観を未来に残すためのガイドラインの検討			○
・空き家情報の共有と町空き家バンクとの連携 (連携：防災、総務部会)	○		○
・空き家を活用した地域のにぎわいづくり (イベント等の実施)	○		
・日本で最も美しい村連合との連携			○
(2) 地場産業の事業継続			
・地場産業の継続に向けた方策の検討			○
・箸、和紙の魅力のPR活動		○	
(3) 国栖地域の魅力再発見と情報発信			
・書物や伝承による歴史の掘り起こし、地域の歴史、文化の整理、文書化			
・語り部の養成、地域文化の伝承講座の開講 (一般向け)			○
・国栖の里散策ビュースポットの案内板整備			○
・SNSやHP等インターネットを使ったPR (連携：総務部会)	○		
・国栖の杜プロジェクトの観光・体験グループとしての活動展開	○		
・森林セラピー誘致活動と森林セラピー体験の定期的な開催		○	○

○中長期的な取り組み（5年、それ以降）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	
（1）「国栖の里」の美しい景観づくり			
・景観保全まちづくり協定の策定		○	○
・自然景観保全活動の普及		○	○
・空き家情報の整理	○	○	○
・空き家の有効利用と移住者の受入体制構築 （連携：総務部会）	○	○	○
（2）地域資源を活かした観光案内の事業化			
・「国栖の杜」を観光拠点とする国栖地区全体での観光案内や地場産業の体験実施体制の構築 （連携：地域活性化部会、国栖の里観光協会）	○	○	○
・森林セラピー国栖コースの整備			○
（3）地域の魅力が継承できる体制や方策の検討			
・語り部となる若者の人材育成・支援			○
・地域の魅力の見える化（文化的資料の展示、地域住民に愛着のもてる歴史書等）		○	○

② 地域福祉推進部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・ 地域みんなが集える
- ・ 誰もが地域コミュニティの中で、生涯にわたり心温かく暮らすことができる
- ・ 豊かな食のある地域

□活動内容

【これまでの活動】

福祉や健康関連のサロンやセミナー、先進事例の視察、高齢者の見守り活動、配食サービス、小学校跡地を活用したプレイベントでのカフェメニューの提供



上野誠氏、松坂慶子氏来訪時のおもてなし料理



配食サービスのお弁当作り

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	
(1) 高齢者の見守りの強化			
・ 夕食を食べる会の企画 （国栖中央公民館での弁当販売と簡易喫茶）		○	
・ 配食サービス、自宅訪問による見守り		○	
・ 一人ひとりができる見守り活動の普及 （ふれあい郵便の取り組み等）		○	
・ サロンやセミナーの開催 （誰もが気軽に参加可能な形式に）			○

実施内容	計画実行の連携		
	地域・住民		町と協働して行うこと
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	他部会	その他地域組織・地域住民	
(2) 国栖地域の食づくり			
・特産品の開発（ベリー、イチジク、にんにく、栝など）（連携：農業部会）	○	○	
・国栖の杜プロジェクトの飲食グループとしての活動（連携：地域活性化部会）	○	○	○
○中長期的な取り組み			
(1) 高齢者も、地域で活躍しながら、安心して暮らし続けられるまちへ			
・地域内住民が集える拠点づくり 地域コミュニティ喫茶の開業	○	○	
・配食サービスの充実（組織体制の検討）	○	○	○
・高齢者の活躍の場づくり（高齢者が在宅でできるコミュニティビジネス等）	○	○	○
(2) 国栖地域の食を活かした事業化			
・特産品のコミュニティビジネスへの展開	○	○	
・飲食店や販売事業への支援（特産品や地域野菜を使った来訪者向けカフェ、市場等）	○	○	○
・「国栖の杜」における飲食関連事業	○	○	



上野誠氏、松坂慶子氏来訪時のおもてなし事業

③ 農業振興部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・国栖地域の農業を持続させ、振興を図る
- ・地域のコミュニケーションの活発化、協力や助け合いの絆をつくる
- ・生きがいをつくる

□活動内容

【これまでの活動】

防護柵の設置、農業研修会の実施
 (季節に応じた野菜の育て方)、
 苗木の配布(ラズベリー、イチジク)



防護柵の設置



国栖地区特産品づくり研修会
 (農作物育成研修)

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
	地域・住民		町と協働して行うこと
○短期的な取り組み(いますぐ～5年以内)	他部会	その他地域組織・地域住民	
(1) 安心して継続的な農業が行える下地整備を行う			
・実施計画に基づく獣害対策防護柵の設置			○
・農地調査(耕作放棄地等)		○	○
(2) 伝統を保ちつつ、新たな取組を積極的に試行する			
・地域特性や実情に合わせた農業の工夫や研究(狭い土地で効率的な栽培ができる品種、高齢者でも手軽にできる農業スタイル)		○	
・国栖の杜プロジェクトの飲食グループとしての活動	○	○	○

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他地域組織・地域住民	
（3）周辺地域と連携を図る			
・就農者の勉強会、研修会の充実（農業に関する知識の共有、農家同士の交流、周辺地域との連携）	○	○	
・特産品の開発（ベリー、イチジク、にんにく、栳など）（連携：福祉部会、吉野町周辺地域）	○	○	
・農業普及員による指導を受ける			○
○中長期的な取り組み（5年、それ以降）			
（1）今後の農業の方向性を見出し、実践する			
・「国栖の杜」における農産物や特産品の販売	○	○	
・特産品の広域的な販路の開拓・拡大	○	○	
・遊休農地の活用や集落営農等、新たな方策による生産力の向上			○
（2）持続可能な地域農業を目指す			
・計画的な農地整備（集約化等）		○	○
・地域農産物の安定供給、品質向上を図る		○	
・若手就農者の育成・受入の支援		○	○

④ 防災・防犯部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・ 防災関係組織の統括、連携、情報共有を図る
- ・ 地域住民の自主防災力の向上を図る
- ・ 国栖地区の防災のあり方・方向性についての指針を示す、提案する
- ・ 時勢に応じて、地域に求められる防犯への取り組みを行う

□活動内容

【これまでの活動】

防災備品の整備、防災マップ作成の検討、防災訓練の検討



防災・防犯部会

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
	地域・住民		町と協働して行うこと
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	他部会	その他地域組織・地域住民	
(1) 防災			
・ 防災拠点として、「国栖の杜」に必要な整備についての提案	○		
・ 国栖の杜の各施設（体育館、幼稚園、キャンプ場等）の防災時の役割を検討	○	○	○
・ 地域の各所に資材のストック（単管、コンパネ、ブルーシート等）		○	○
・ 消防団、自主防災会、自治協議会の役割分担、連携案の作成		○	
・ 各大字の自主防災会への指導、各大字の防災に対する意識統一		○	○
・ 国栖地区全体のハザード MAP 作成		○	
・ 地区内の住宅用火災警報器設置促進			

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他地域組織・地域住民	
(2) 防犯			
・地域住民一人ひとりの防犯意識の醸成		○	○
○中長期的な取り組み			
(1) 大規模災害に備えた防災体制を整える			
・「国栖の杜」を防災拠点とした、災害時の組織体制の再編		○	○
・防災拠点や仮設として使える空き家の調査（連携：美しい村部会）	○	○	○
・災害時のボランティア受入体制の検討			○
・孤立した地区への対応のため、衛星携帯、防災無線の整備		○	○
・助成金を活用した、資材の継続的な購入	○	○	
(2) 防犯			
・地域の見守り活動（連携：福祉部会）	○	○	○

⑤ 地域活性化部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・国栖の杜を活用し、地域の活性化を図る
- ・国栖地区エリア全体で、各部会や地域住民を巻き込んで活性化を図る
- ・国栖のもつ地域資源を活かして、国栖の魅力を外部の人に伝える

□活動内容

【これまでの活動】

ワークショップ形式の部会で小学校跡地活用を検討し全体構想案を作成、先進事例の視察、小学校跡地等の名称決定コンペの開催、小学校跡地を活用したイベントの実施



近大生との交流



地域活性化部会ワークショップ

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	
○短期的な取り組み			
（1）「国栖の杜」でのチャレンジ的な取り組みを実施			
・「国栖の杜」での試行的な取り組みを実施しながら、地域活性化への計画づくりを行う	○		○
・各部会、地域団体（観光協会や和紙・製管組合等）、町への連携の働きかけ	○	○	○
・SNS等を活用し、取り組みの情報発信・広報を行う	○	○	

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		
	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	町と協働 して行う こと
(2) 「国栖の杜」に整備するハード整備についての検討			
・チャレンジ的な取り組みを通して「国栖の杜」へのハード的な施設整備の検討を行う	○	○	○
(3) 「国栖の杜」の管理運営についての検討			
・チャレンジ的な取り組みを通して「国栖の杜」の管理運営についての検討を行う	○	○	○
○中長期的な取り組み			
(1) 「国栖の杜」の法人化			
・安定した経営・運営を行うため、「国栖の杜」の管理運営組織の法人化について検討する	○	○	○
(2) 「国栖の杜」を中心とした、国栖地区全体の観光事業化			
・来訪者の観光拠点づくり（国栖の杜を拠点として位置づける）	○	○	○
・首都圏からの交通アクセス改善（大和上市駅からのバス路線、送迎等）（連携：総務部会）	○	○	○
・地域の様々な主体や町と連携し、「国栖の杜」を中心とした、国栖地区全体の観光の事業化	○	○	○

⑥ 総務部会活動計画

□部会の役割、基本方針

- ・各部会の全体統括を行う
- ・地域の各組織や大字をつなぎ、地域内の連携を図る

□活動内容

【これまでの活動】

定例総会（事業計画、予算審議）、自治協だよりの発行、幼稚園舎改修工事についての検討



総務部会

【今後の活動】

実施内容	計画実行の連携		
	地域・住民		町と協働して行うこと
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	
（１）地域内外への情報発信による地域の連携促進			
・自治協だよりの内容充実			
・ネットを利用した情報発信 （自治協 HP 作成、SNS の活用等）	○	○	
・空き家調査、協力の呼びかけ （連携：町、美しい村部会、防災部会）	○	○	○
・祭りにおける大字の連携を図る		○	

実施内容	計画実行の連携		
○短期的な取り組み（いますぐ～5年以内）	地域・住民		町と協働して行うこと
	他部会	その他 地域組織・ 地域住民	
(2) 「国栖の杜」の施設整備や運営について			
・ 体育館、旧幼稚園舎を利用した事業やイベント開催におけるサポート	○		
・ 登校道をはじめ、今後「国栖の杜」に整備する施設等のハード整備についての検討 (連携：地域活性化部会)	○	○	○
○中長期的な取り組み			
(1) 将来的に安心して生活できるための各機能（食、産業、交通等）の体制や組織づくり			
・ 自治協議会を法人化し、地域の運営体制を組織化、再編する	○	○	○
・ 高齢化に伴う、地域公共交通計画案を作成（バス路線検討、乗合タクシー・生活基盤施設の送迎バス等を検討）（連携：町）	○		○
・ 移住者の受け入れ体制づくり (連携：町、美しい村部会等)	○	○	○
・ 若手就農者の受入体制づくり (連携：農業振興部会)	○		○
(2) 「国栖の杜」を地域づくりの総合的な拠点化へ			
・ 観光の事業化等、来訪者にとっての地域交流拠点となる体制づくり	○	○	○
・ 避難所や配食サービス等、住民生活に関わる地域の拠点となる体制づくり	○	○	○
・ 「国栖の杜」設立準備会の法人化、各主体の連携を支援	○	○	○

Ⅶ 重点プロジェクト - 国栖の杜プロジェクト -

1 国栖小学校跡地利活用の基本理念

国栖地区では人口の減少、少子高齢化が進み、交通や買い物などの不便さ、雇用力の不足、地場産業の後継者不足など多くの課題を抱えています。これらの課題を解決するため、2015年度（平成27年）には「国栖地区の将来をみんなで考えるワークショップ（考える会）」が開催され、参加者同士の話し合いの中から地域の資源を活かした国栖の地域づくりの方向性が「国栖のみらい（国栖地区 地域づくり計画）」として取りまとめられました。2016年度（平成28年）には、この「国栖のみらい」をふまえた上で、地域活性化部会で国栖小学校の跡地利活用についてのワークショップを実施し、国栖小学校の跡地利活用について議論を重ね、国栖小学校跡地利活用のコンセプトや基本理念を次のように設定しました。

■ 国栖小学校跡地利活用のコンセプト

いにしえ かぜかおるうつく さと
 ～上古の風薫る美しい郷～

■ 国栖小学校跡地利活用の基本理念

1) 地域住民が楽しめる

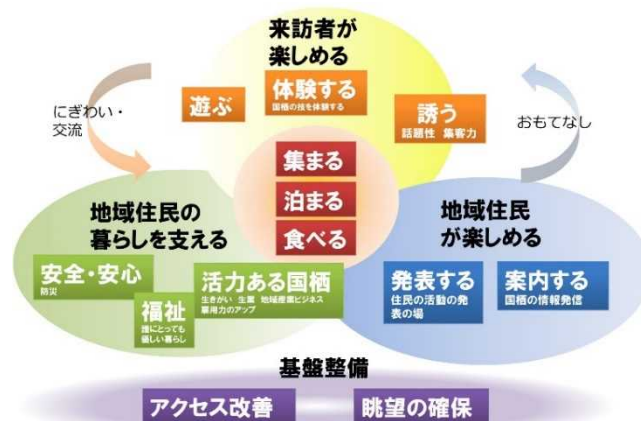
- ・国栖の里灯り展などのように地域住民が自分の作品等を発表することができる場
- ・国栖の誇りである自然や歴史資源を発信することができる場
- ・地域住民が来訪者をおもてなしすることができる場

2) 来訪者が楽しめる

- ・和紙や箸作りなどの伝統産業を体験することができる場
- ・国栖の自然や地形を利用したアクティビティを楽しむことができる場
- ・来訪者と地域住民が交流することができる場

3) 地域住民の暮らしを支える

- ・地域住民が互いに助け合い、生き生きとした暮らしを支える場
- ・安全 安心な暮らしを支える場



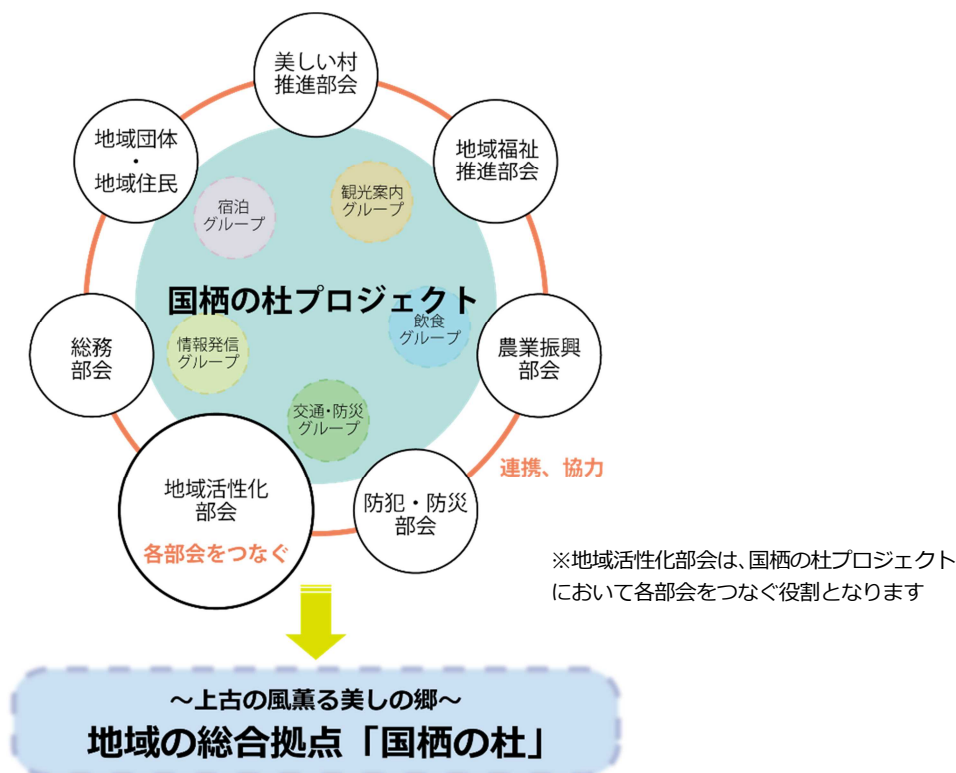
2 国栖の杜プロジェクトの立ち上げ

2017年度には地域住民への公募により国栖小学校跡地は、「国栖の杜」という名称となりました。今後、「国栖の杜」を地域住民の暮らしをより豊かにし、外部の人にも国栖の魅力を発信できる地域活性化の総合的な拠点と位置づけ、その活用を具体的に進めていくため、各主体が連携して取り組む横断プロジェクトである「国栖の杜プロジェクト」を、各部会や地域における各組織の垣根を越えて推進していきます。

3 国栖の杜プロジェクトの組織体制・連携

「国栖の杜プロジェクト」を進めるにあたり、地域づくりの総合拠点「国栖の杜」の設立に向けた準備会を立ち上げます。この設立準備会メンバーを中心に、これまで議論されてきたアイデアを実現するための管理運営方法や施設内容について検討し、様々な試行的な取り組みを行います。

取り組みを行うにあたっては、各部会や地域団体(観光協会や和紙・製箸組合等)のメンバーや地域住民有志が参加した部門ごとのグループ(飲食、観光・体験、宿泊等)をつくり、グループ同士で協力しながらプロジェクトを進めます。地域活性化部会は、プロジェクトを推進するために各主体への連携を呼びかけ、各主体をつなぐ役割を果たします。



4 国栖のあゆみとみらい



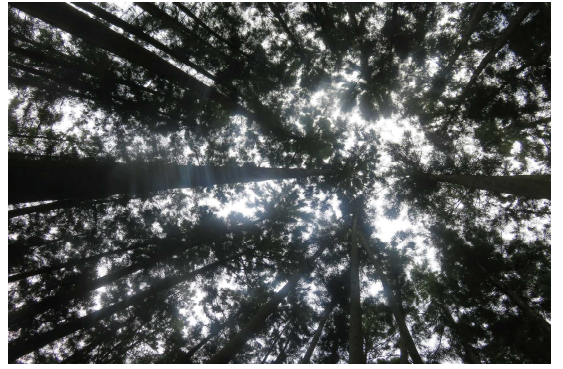
国栖地区空撮
※国土地理院地図（空中写真閲覧サービス）
をもとに吉野町文化協会が作成



天満屋芝居



国栖里灯り展
イベント



国栖太鼓踊り



南大野の渡船



窪垣内の渡し舟



昭和 45 年頃の国栖小学校



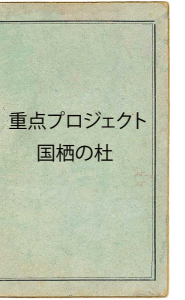
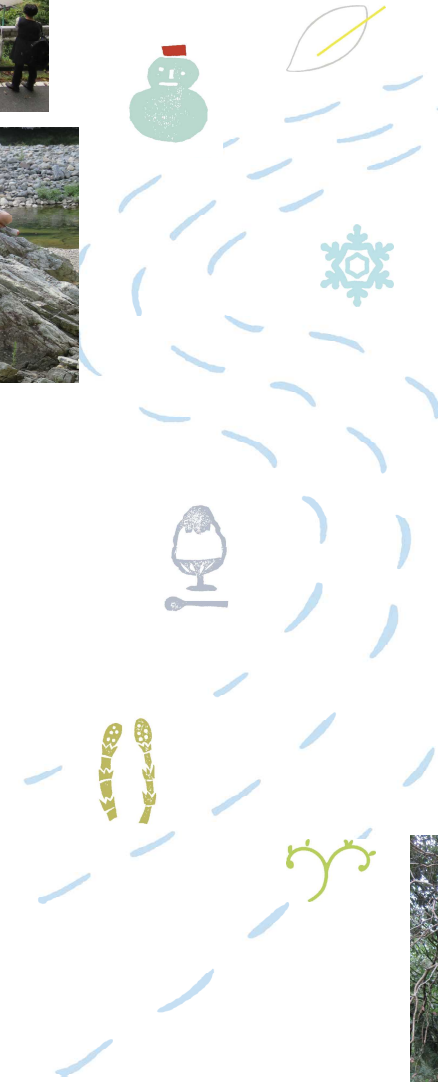
国栖小学校改築に伴う
移転作業



給食当番



昭和 45 年頃の国栖小学校



浄見原神社



国栖ふれあいフェスタ



くになすマラソン



おわりに

国栖地区地域づくり計画に基づいて、地域づくりを実践し評価するのは住民の皆様です。この計画や自治協議会活動に対し、住民の皆様の思い、ご意見を聞かせていただき、今後の地域づくりに反映していきます。

計画は時代の移り変わりの変化や国栖地区の地域づくりの進展に対応するため、継続的に見直しを行います。重点プロジェクトである、国栖の杜プロジェクトを進め、設立準備会が国栖の杜への運営主体として移行していく大切な時期であることをふまえ、本計画策定から3年後までは、毎年見直しを行い、取組の実践と評価を繰り返しながら、実現に向けて前進していきます。その後は概ね3年ごとに見直しを行います。

住民一人ひとりが熱い思いを持って、真剣に取り組み、夢と希望のある真のまちづくりを実現させましょう。



国栖地区地域づくり計画書

編集 発行 国栖地区自治協議会

平成30年3月

写真提供 紙森 利美氏

吉野町文化協会